

NO	01-2	級	ハイク中	日本の古代史年表										
世界文化遺産登録「百舌鳥古墳群」ロングハイキング 日帰り				縄文時代	弥生時代	古墳時代 百舌鳥・古市古墳群	飛鳥時代	奈良時代	平安時代					
反正天皇陵・仁徳天皇陵・大仙公園・履中天皇など17古墳を歩く				BC	AD	0	100	200	300	400	500	600	700	800
歩行距離	12.18 km	歩行時間	3時間25分	休憩・昼食・観光	90分									
予備時間	35分	全行程	5時間30分	最大標高差	10m									
				前方後円墳	帆立貝型墳	円墳	方墳							
				世	世界遺産	国	国史跡							

仁徳天皇 (在位:西暦313~399年頃)

応神天皇の第四王子。母は仲姫命(なかつひめのみこと)。4世紀末から5世紀前半に実在したとみられる。即位元年難波高津宮に都を移す。即位4年、人家のかまどから炊煙が上がらないのに気付いて3年間租税を免除した。その間は儉約で宮殿の屋根の茅さえ葺き替えず、天皇の治世は仁政で知られ『仁徳』の諡号(しごう:死後の贈り名)の由来となる。大規模な灌漑工事を実施し、広大な田畑を開拓。業績は聖帝(ひじりのみかど)と称され、治世は「聖の世」といわれた。人間臭い一面も描かれるが、即位2年に葛城磐之姫を皇后とし、王子(後の履中天皇、反正天皇、充添天皇)を授かった。即位67年に百舌鳥耳原を陵墓地と定める。

反正天皇(はんぜい)(在位:西暦406~411年頃)

仁徳天皇の第三王子。母は磐之姫命(いわのひめのみこと)。履中天皇は弟。天皇は兄弟継承となる。允恭天皇は兄。河内丹比を都とする。皇太子を立てず子孫が即位することもなかった。天下太平で何事もなく在位5年が過ぎた後は兄の充添天皇が継いだ。

履中天皇(りちゅう)(在位:西暦400~405年頃)

履中天皇は仁徳天皇の第一王子。即位後国史や内蔵を整える。葛城黒姫を皇后として、2人の王子(後の仁賢天皇・顕宗天皇)を授かった。即位6年病気で崩御した。

いたすけ古墳

墳丘は3段に築く。周濠の南側に大規模な堤がある。私有地のため昭和30年ごろ土砂の採集と住宅造成目的で破壊される運命だったが買取保存資金が難航したが市民運動の寄付金により破壊から守られた。樹木伐採の後遺症があり、草原の墳丘。

御廟山古墳(ごびょうやま)

以前は2重濠があったとされる。2008年崩落補修と発掘調査があった。江戸時代前期に環濠が農地用水の溜池で利用された際、環濠の拡張工事で墳丘の一部の破壊が判明。2018年内濠が国の史跡に指定。

堺市博物館(昼食休憩)

1980年に開館。常設展は百舌鳥古墳群から出土した出土品などを展示。「百舌鳥古墳群シアター」の三次元大型スクリーンが見れます。おすすめです。

ニサンザイ古墳

平成24年の新聞切り抜きから掲載。巨大前方後円墳。昭和51年以降の調査で全長300m以上と判明。発掘された円筒埴輪から5世紀後半の築造で、仁徳天皇陵より新しい。宮内庁は反正天皇の空墓として陵墓参考地に指定し管理中。

百舌鳥八幡宮(もずはちまんぐう)

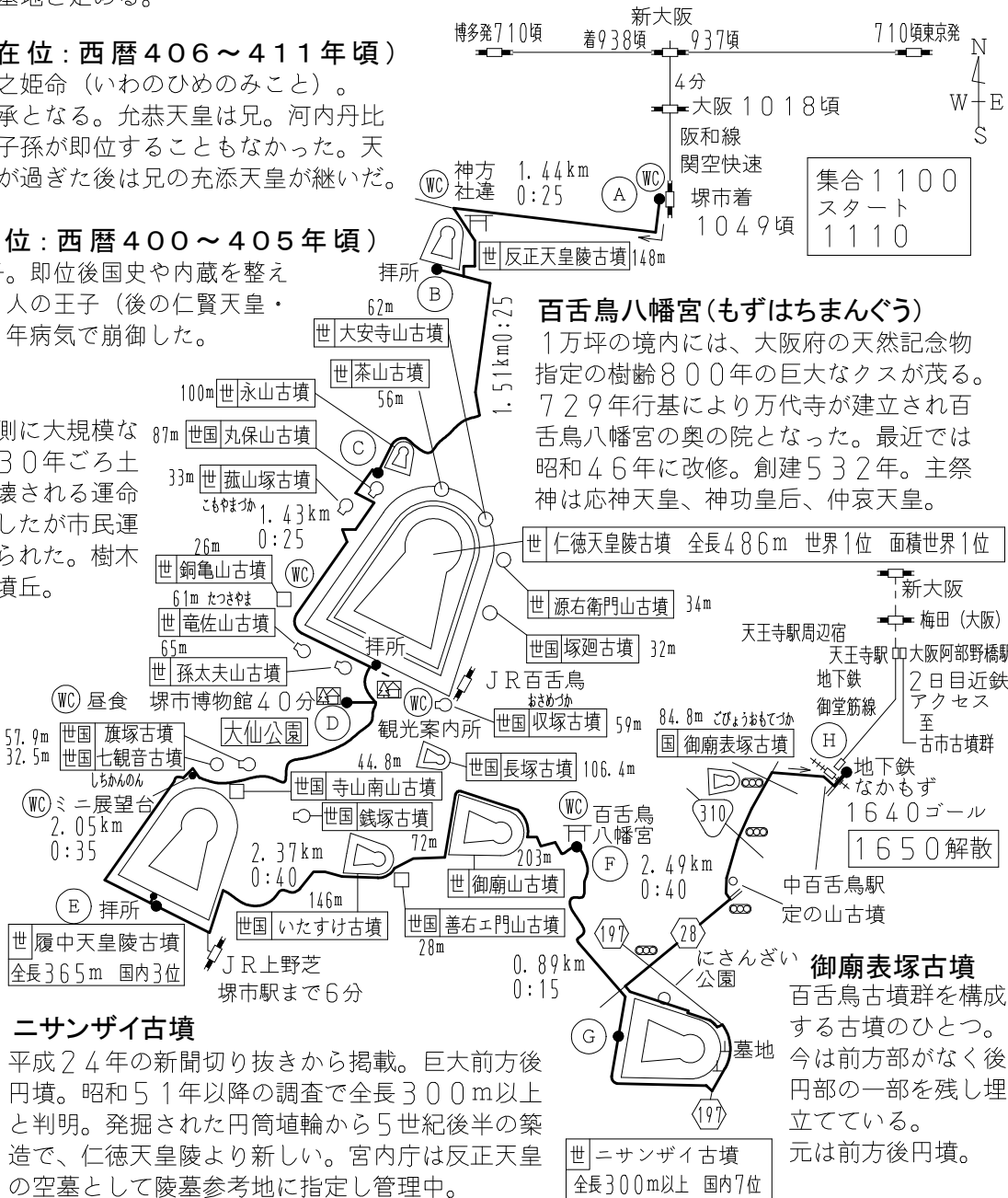
1万坪の境内には、大阪府の天然記念物指定の樹齢800年の巨大なクスが茂る。729年行基により万代寺が建立され百舌鳥八幡宮の奥の院となった。最近では昭和46年に改修。創建532年。主祭神は応神天皇、神功皇后、仲哀天皇。

世 仁徳天皇陵古墳 全長486m 世界1位 面積世界1位

御廟表塚古墳

百舌鳥古墳群を構成する古墳のひとつ。今は前方部がなく後円部の一部を残し埋立てている。元は前方後円墳。

世 ニサンザイ古墳 全長300m以上 国内7位



距離 km	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
標高 m	14												
沿面距離 km	1.44	1.51	1.43	2.05	2.37	0.89	2.49						
推定時間 h	0:25	0:25	0:25	0:35	0:40	0:15	0:40						
標高差 m	2	-2	-1	4	1	5	-1						
合計	沿面距離約12.18 km		推定時間約3:25 (歩きのみ平均歩行速度3.6km/h)		累積標高(+)約69m		累積標高(-)約61m		最大標高差約10m				